

世界金融危機の行方と銀行・証券ビジネスの再構築

三菱東京 UFJ 銀行企画部経済調査室長

内田 和人

今回の世界金融危機を信用バブル崩壊プロセスの5段階として整理すると、現在は第4段階にある。サブプライム問題が勃発し、証券化市場の流動性が急縮小したのが第1段階。第2段階はモノライン会社の格下げで、安全志向の運用資金をクレジット市場から離反させ、米国証券の信用評価システムに対する信頼性が一気に低下し、第3段階のソルベンシー危機を引き起こした。ここで米金融当局は異例の金融支援に出るが、病巣である不良債権問題への対応が遅れ、第4段階の金融危機、連鎖的な金融破綻に陥った。この局面では信用収縮・経済失速の負の連鎖が強まり、金融システムが麻痺する。無論、公的資金投入、政府保証付与などのセイフティネット対策がとられ、第5段階の金融危機（金融モラトリアム）に至る可能性は低いとみられるが、欧米の金融危機再燃を目の当たりにすると、瀬戸際に立たされている感は否めない。金融危機の収束・正常化には、「不良債権処理の進捗」、「産業再編・企業再生」が不可欠であり、清算主義に走らず、金融・経済システムを崩壊させないように対応の社会コストと一定の時間をかけることが肝要である。

一方、今回の世界金融危機を教訓として新たな金融・証券ビジネスの再構築、制度の再設計、新規制の導入等が検討されている。

①自己資本規制の補完（レバレッジ比率とプロシクリシティ）、②負債・資本の質（流動性リスク、コア Tier 1）、③健全性監督強化（国際モニタリング機能強化、ストレステスト）、④会計制度の課題（時価会計・オフバランス会計）、⑤企業ガバナンスの改善（Global Corporate Citizenship, 経営指針、内部統制システム）等。また、わが国証券市場の発展に向けては、クレジット市場の進化や銀行・証券の融合化(CIB モデル)も重要な課題となろう。